

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070901188		
法人名	有限会社 エイ・シー・エス		
事業所名	グループホーム 花みず木		
所在地	福岡県福岡市博多区西月隈3丁目3-54		
自己評価作成日	平成30年3月3日	評価結果確定日	平成30年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成30年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

入居者が楽しんで喜んで頂けるようなサービス提供に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「花みず木」は開設15周年を迎えた2ユニットグループホームで、名前の通り花の見える施設として敷地内には庭木とペットの犬が飼われており、入居者との憩いの場にもなっている。敷地内には介護付、住宅型施設の2施設が隣接しており、状態に合わせて異なるサービスが一体的に提供できることが相乗効果を生んでいる。近年は改めて基本に立ち返り「ユマニチュード」の取組に力を入れており、徐々に職員にも意識の変化が生まれている。開設当初から外出レクに注力し、定期的に行い続けており、外食などは入居者の刺激になり食欲も引き出している。車いす用の特殊車両もあり、同じように外出機会が持たれている。職員が長く勤められるように、勤務体制も柔軟に改善し、10年以上勤める職員も複数在籍する。開設から16年を迎え、今後も地域を支える活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた毎年のスタッフの目標を提示し目標を達成できるように実施している。	開設時からある、法人共有の理念があり、毎年基本方針と理念に関連した個人目標を立てる。施設長との面談などで半年ごとに把握もして評価にもつなげる。法人名のACSを頭文字とした、理念があり、それを具体的な行動に繋げるための目標として建てられ実践につながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃、総会へ参加している。また、町内の夏祭りへの参加もしている。	月隈校区と合わせた地域行事があるが距離があり参加が難しい。町内清掃や定例会にはスタッフが継続的に参加しており、入居者が一緒に行く事もある。4月から系列施設合同で認知症カフェを企画しており、区域内には町内会長と相談して日程を決め、回覧板やマンション掲示板などで周知しており、民生委員のボランティア協力も依頼している。地域内での認知度も年々高まり、昨年初めて地域の方の紹介で、入居に至った。	新しい取り組みとして認知症カフェの開催が4月に迫っているが、引き続き実行、改善のサイクルによって在り方や、やり方を皆で話しあいながら、より良いものにされていくことが望まれる。家族や地域の方、過去の関係者など協力者が増えていく事にも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議にて認知症の支援や理解等を含め説明している。また今年カフェを行う予定であり、もっと地域と触れ合う行事等も検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議で餅つきのやり方等の指導を受けたり、入居者にどのように楽しんで頂いているのかまたは相談等を雑談のような形になるが話し合っている。	2ヶ月ごとに定期的に開催し、議事録は入り口直ぐに設けて掲示板に掲示して見てもらえるように改善した。民生委員の入れ替わりもあって会議メンバーも変わったことで新たな視点から相談やアドバイスも出てくるようになり、会議に活気が出てきた。家族には全員に参加案内しているが、参加には至っていない。毎月決まった曜日に開催し、リビングで行うため入居者に座ってもらう事もある。	家族にも毎回案内しているが参加には至っていない。4月から始まる認知症カフェと合わせて運営推進会議も計画することで、参加者の幅が広がり、積極的な運営がされることに期待したい
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の入居者がおられるので色々な面で福祉課、市の指導課に相談等を行っている。また、推進会議に参加された時にお話をしたりしている。	運営推進会議の案内は毎回市役所にしており、直近では参加があった。最近マイナンバーの登録の件で、市にも電話で相談したことがあった。生活保護の方の受け入れもあり、入居照会受けることもある。運営推進会議の議事録も欠席時は報告している。今回の認知症カフェの案内も行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1人の入居者を通し身体拘束をしないケア方法として玄関のチャイムやモニターを設置した。スタッフの所在確認の声掛け等も実施している。他施設のスタッフ共に連携している。	日中は施錠しておらず、帰宅願望の強い方の離脱事故があったが、それ以降は個別の見守りの強化と、モニターとチャイムの設置によって対処できている。異食行為のある方に拘束着の使用があるが、同意の上、話し合いを定期的に行い、常時解消に向けた取り組みを継続している。個別の事例検討はするが研修がなかった。徘徊SOSの加入もあり、近隣の方への協力依頼もしている。	昨年は研修などの実施がなかったため、今後は年間計画の作成や、定期的な研修の参加、実施がなされることに期待したい。

H30.3自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてはユマニチュードの本で学んだり、常に虐待にならないように注意を行っている。また、新聞やテレビ等で虐待のニュースを見て日頃のケア方法もミーティングやカンファレンス等で話し合っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援にて、成年後見制度を活用している入居者もおられる。今後成年後見制度を活用を検討している入居者もいる。	入居後に成年後見制度の活用に至った方がおり、家族とも相談した上で、事業所が中心になって手続きを進め外部の後見人を立てた。別の入居者でも身寄りのない方がおり、主治医とも相談して手続きを検討している。管理者が窓口になることが多く、実例を通してよく理解されている。	実例により、管理者は制度に明るいですが、今後は事業所としての周知と理解を進め、継続した勉強会や研修の実施がなされることに期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と質問やを受け納得のいくように理解を図っている。契約以降も質問等に応じている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会で管理者が日頃の様子等をお話し、そこで家族より苦情や希望を聴いている。また、こちらから家族に希望をお願いしている事も多い。	日頃は面会時などに聞くことが多く、1Fは全員が月1回以上来訪し、全体では7割程度が来られる。足の遠い方にも個別の「はなだより」や電話による報告でコミュニケーションの機会を持っている。要望が上がった時は内部で共有して、対応につなげている。4年ほど前に家族会を企画したが、その後はされていない。	6月に予定されている介護保険改正に合わせた説明会の際に家族会を実施し、取り組みの周知や、家族の要望を聞き取る場を設けることが望まれる。茶話会のように、フランクで話やすい雰囲気を実施されてはどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングでスタッフの意見を取り上げ、幹部会等で話し合っている。また施設長と管理者が話し合っ問題解決を行っている。	事業所内の風通しも良く、意見も上げやすく、代表にも伝えられている。昨年からは雇用契約や就業規則の整備も行い、ユニット間での交流も新たに図るようになった。レクなどは全体で取り組み、毎月のミーティングは原則全員が参加している。入居者の状況やケアに関して話し合われ、職員によってバラバラの対応にならないよう、共通を図っている。日頃気づいたことは申し送りなどで随時話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々のスタッフの査定を行い、施設長と面談等を1年に2回行っている。その時にスタッフからの希望や苦情等も直接言える環境と整えている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女や年齢、介護技術等を考慮して十分に配慮している。	男女比は3:7程度で、20~50歳代の職員が在籍している。無資格でも入社後の資格取得が可能で、それぞれが自分の強みを使って経験をいかしながら、お互いにコミュニケーションをとっている。特技をレクなどで活かしており、編み物や製作などを行っている。休憩時間はあるが、リビングで昼食後などに一体的にとることが多い。	研修案内を内部で共有しているが、職員が参加しやすくなるように、勤務体制や出席支援として会社からも後押しされてはどうだろうか。またメリハリをもった勤務が実現できるよう、勤務と休憩の切り分けや、休憩スペースの検討などがなされていくことにも期待したい。

H30.3自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	個別指導を行っている。	代表が個別面談の際に、直接、高齢者の人権や接し方に関しての話を伝えている。職員の中で何名かが認知症実務者研修に参加しており、研修報告と資料回覧によって内部での伝達もしている。	事業所としての継続した人権教育、啓発活動の取組として、定期的な研修、勉強会の実施がなされていく事に期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ同士でトレーニングを行っている。また、管理者も個々の力量や年齢、性別とに合わせたトレーニングやアドバイスをしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は入居者の体調不良等が多く同業者と交流する機会があまりなかった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の会話や家族からの情報収集に努め環境を整えたりしながら安心感が得られるような関係作りを行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望や不安または今までのケア等を踏まえ、家族との情報収集をきっかけにし信頼関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体面や精神面また経済面等も含め必要性があるかどうか常に検討して対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一つの家で暮らしている者と同じような感覚を常に持った関係作りを築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係性を聴取し良い関係性を保持、または支援を行っている。		

H30.3自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会や馴染みの関係性を切らないように対応している	家族の面会は多く、月1回程度は定期的に来られており、それ以外でも元からつながっている友人や知人なども自由に来てもらっている。同敷地内の別施設に夫婦でそれぞれ入居する方が行き来したり、利用者同士で新たな交流が生まれることもある。馴染みの美容室に行ったり、自宅近辺までお連れする支援も行っている。家族関係が疎遠になった方もいるが、馴染みのある関係者の面談などを働きかけている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の支え合いに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した利用者の面会やお見舞へ行ったり手紙のやり取り等を行ったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望に沿った支援に努めている	入居時には情報提供書を取得したり、関係機関からの情報をもらっている。以前は違う様式のフェイスシートを使っていたが、事実との相違が大きかったため、入居後の実際の様子を主眼においた課題分析表を使うようにしている。実際の様子から意向の把握につとめ、今からは書類様式の再整備にも取り掛かっているところである。	人員の入れ替わりがあり、見直しが遅れている部分もあるが、新入職員の入るタイミングで改めて記録の整備が進んでいく事に期待したい。また、入居者の経歴や入居前の情報を再度整え、情報を補完して記録に残していく事が望まれる。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のCMやサービス関係者、近隣住民等の情報収集を行っている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録やモニタリング、ミーティングで把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや申し送り等でケア方法やアイデア等を出して頂き、モニタリングや評価時に見直しを行っている	ケアプランは主に計画作成担当者が行い、ケアマネが総括している。アセスメントとモニタリングは担当を振り分け、評価は全体で行い、意見や提案も出し合っている。半年ごとに見直し、その際に担当者会議も開催する。家族の参加や、意見も議事録に残され、プランにも反映している。日々のプラン目標の実施もチェックしており、モニタリングに繋がっている。個別の状態に合わせたプラン立案がなされている。	

H30.3自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録以外の記録等を必要に応じて作成し実践に向けて当日勤務者で話し合い行っている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ柔軟に対応している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や会議に出席し協力を得ている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の訪問診療を受けている。常に助言やアイデア等協力合っている。	元々のかかりつけも継続もできるが、その場合は原則家族に通院支援してもらい、提携医の場合は訪問診療を受けている。家族の援助が難しい場合は事業所からも支援する。在宅メインの提携医の看護師も多数おり日頃から連携もよくとられている。家族には直接情報提供書の控えを送り、家族通院の際は病院とも直接連絡をとって把握するようにしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間連絡が取れる体制をしているので、相談や受診等が出来るような関係性を作っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関やCM、SW等にホーム内でのケアや看護、医療を説明し、退院へ向けて支援を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化する前やした後も十分に話し合いホーム内での継続が困難であると判断した場合は事業所の方針を理解して頂き、家族納得の上他施設の入所や入院をお願いしている。	以前は看取りまで行っていたが、その後の職員同士での話し合いや検討によって現在は看取りまではしない方針に変えている。引き続き検討課題として持っている。その中でも出来る限りのことはぎりぎりまで事業所で支援する考えである。提携医は24時間対応で夜間なども訪問できる。	

H30.3自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や看護師による指導を受けている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修や、消防訓練等を行っている。また地域との協力出来る声掛けを行っている。	訓練は年2回実施し、うち1回は消防署が立ち会い、研修も受ける。夜間と日中想定でそれぞれ行い、消火器の扱いもしている。避難経路も2か所あり、2Fからの避難想定もしている。運営推進会議時に地域への協力も依頼しており、報告もしている。訓練に参加してもらったこともある。食料品と備蓄物も1週間程度備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーを尊重した対応をしている。	一人一人に合わせた声掛けや接し方を意識し、職員の年齢や性別によっても、職員と入居者を対個人として接するようになっている。お便りや掲示での写真の利用はあるが、入居時に説明、同意を得たものだけに留めている。昨年はなかったが今年度は接遇に関しての研修も計画されている。排泄の表現に関しても別の言葉に置き換えて伝えるようになっている。	トイレの介助時のカーテンや外側ドアの開け閉めの徹底に関して、改めて安全性の確保とプライバシーの両立が出来るようなケアの検討がされることに期待したい。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る様に支援している。出来ない方には出来るように選択肢を設けたりしてなるべく本人の思いを優先している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ペースを大事にした支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれを意識した声掛けや支援を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、買い物、調理、片付けを入居者と一緒に行うことが出来る様に支援している。	1,2Fそれぞれでメニュー作成、食材管理、準備、調理まで行い、出来る方には準備などから手伝ってもらえる事もある。中には積極的に手伝う方森、出来る事をしてもらう。職員も同じ時間に同じものを食事しており、感想や要望なども聞き取っている。外出レクの中で外食も多く、好きな物を食べてもらっている。	

H30.3自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体、口腔状況や好みに合わせた食事提供を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科にて口腔ケアを実施して頂き、アドバイスを受け能力や口腔衛生状態に合わせたケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の状態に合わせた排泄支援に努めている。	排泄介助が必要な方のみ、チェックをしている。チェックは個別記録の中に項目を設けて時間帯などを記入して記録する。ミーティングの中で話し合い、誘導などに関しては時間帯を変えるよう意見も出し合っている。気づいた職員が適宜話し合うことで提案につなげている。	時間帯の提案や、排泄リズムの把握につながるよう、排泄チェックが時間帯、時系列に合わせて一瞥できるように、様式の変更を含めて検討されてはどうか。また、排泄介助時のトイレの外ドアの開閉に関し、プライバシーへの配慮に今一度意識を向ける事にも期待したい。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や薬、水分補給や運動、入浴で予防に取り組んでいる		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や心身状況で入浴を支援している。	1,2Fそれぞれに共通の造りのユニットバスがある。開設から16年になるが、掃除も行き届き清潔にされている。基本は週2~3回の入浴で、希望により毎日入る方もいる。順番なども希望を聞いて考慮して働きかける。常時寝たきりの方もいるが、3人介助で別途簡易浴槽を使って月1回は入ってもらい喜ばれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間を決めることなくその人の状況で安眠を促している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師からの説明で理解に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションで楽しんで頂いてる。また、麻雀をしたり、ホーム内での行事ごとにはビール等を提供している。		

H30.3自己・外部評価表(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や友人と外出が出来る様に協力を仰いでいる。	外出レクには力を入れており、毎月ほぼ必ず車で外出行事を行っている。過去には阿蘇山まで日帰りで行った。車3台に分乗し、原則全員で行くようにしている。原鶴温泉に泊まりで行ったこともある。日常的には近くのスーパーへの食材の買い物やショッピングモール、散歩にも日頃から行っている。利用者の状況によって変えるが、刺激になるような様々な企画を催している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心感を持たれる方は持って頂き、個別の外出で使用できるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もおられるし、電話がしたい時には電話が出来る様に支援や協力を求めている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が理解できるように工夫したり、環境温度に気を配っている。	ユニットは1.2Fに配置され、床材はフローリング調のビニルマットである。それぞれ造りは共通で、リビングの一角にスタッフの作業コーナーがあり、入居者は＝字型に配置された6人掛けテーブルに腰かけて、食事やテレビなどが見られる。窓からの採光のほか、照明も多数あり、室内は明るい。廊下とリビングに面して居室が配置されるが、入り口は一目で見渡せるようになっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良い場所で過ごせるように自由にしてしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の家にあった家財や小物を持って頂き環境面は常に配慮している。	電動介護ベッド、クローゼットが備え付けられている。寝たきりの方がベッド上でテレビを見られるように取り外し式のオーバーテーブル上にテレビを置いたり、ラジオを流したりと、状態に合わせ、無理なく刺激にもなるよう工夫している。誕生日の写真を飾ったり、使い慣れた家具の持ち込みも自由に行える。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮し常に自立や現状維持に取り組むようにしている。		